

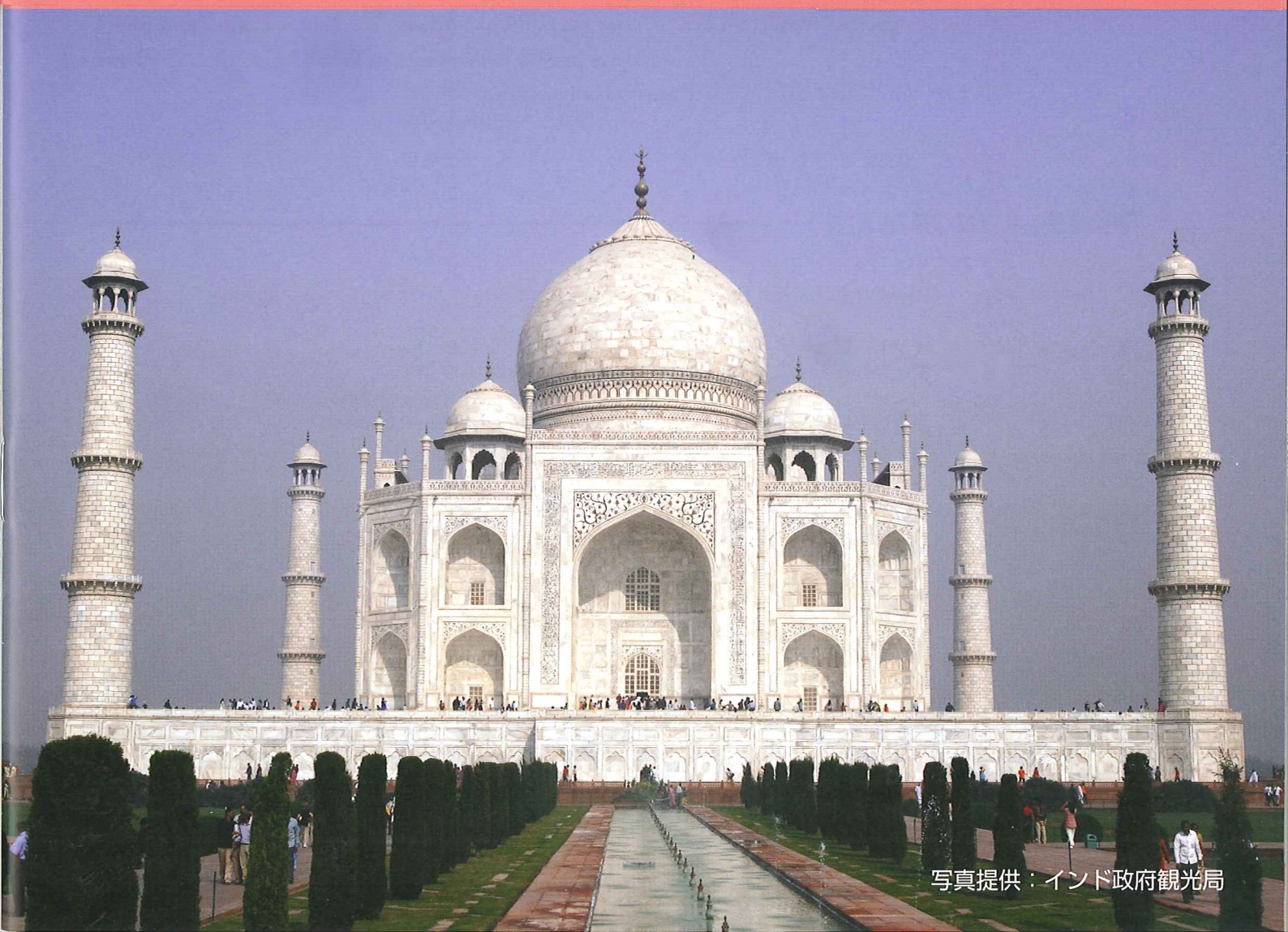
UNWTO-JAPANESE SYMPOSIUM ON ENCOURAGING TOURISM EXCHANGE IN INDIA

REPORT

22nd JUNE 2010 NEW DELHI, INDIA

日本ーインド観光交流促進シンポジウム

報告書



開催趣旨 ● OBJECTIVE



南アジアの大国インドは、近年飛躍的な経済発展を遂げており、観光資源も豊富で、日本経済界・観光業界にとって、現在最も注目されている国です。日本ーインド間の観光交流は、近年双方向とも順調に伸びていることから、適切なガイドラインの提示と双方の観光業界・観光関係者の努力によって、今後更に発展する可能性があります。

そこで、上記の状況を踏まえ、現地ニューデリーにおいて、シンポジウムおよび観光業界関係者対象のワークショップを行うことにより、今後の両国間の観光交流促進に資することを目的といたします。

India, a huge country in the south of Asia with abundant tourism resources, has been showing a surprising economic growth in the recent years, and has become one of the most hopeful countries for the Japanese economy and tourism industry. As tourism exchange between Japan and India has been smoothly expanding on both sides in the last few years, we can see potential of further growth with appropriate guidelines and efforts by stakeholders in the tourism industry and related organizations in both countries.

Under such circumstances, we held a symposium and a workshop in New Delhi aiming at promoting Tourism Exchange among both countries.

開催概要 ● OUTLINE

開催日 Date	2010年2月22日(月) Monday, June 22, 2010
会場 Venue	インド・ニューデリー アショカホテル バンケットホール The Ashok Hotel, Banquet Hall, New Delhi, India
主催 Organized by	世界観光機関 (UNWTO) World Tourism Organization (UNWTO) 日本国観光庁 Japan Tourism Agency (JTA) インド観光省 Ministry of Tourism, India 財団法人アジア太平洋観光交流センター (APTEC) Asia-Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)
協力 With the cooperation of	社団法人日本旅行業協会 (JATA) Japan Association of Travel Agents (JATA) 日本財団 The Nippon Foundation
後援 Under the Auspices of	在インド日本大使館 The Embassy of Japan in India
参加者 Participants	150名(日本側50名、インド側100名) 150 participants (50 from Japan, 100 from India)

09:30-10:00 登録受付

10:00-10:40 開会式 (ランプ点灯による開会)

主催者挨拶	デベシュ チャトルベディ スジット バネルジー 田 端 浩 本 田 勇一郎	インド観光省 局長 インド観光省 事務次官 観光庁 観光地域振興部長 世界観光機関 アジア太平洋センター 代表 アジア太平洋観光交流センター 理事長 在インド日本大使館 次席公使 日本旅行業協会 理事長
来賓挨拶	水 上 正 史	
答 礼	柴 田 耕 介	

-----10:40-11:10 ティブ레이크・記念撮影-----

11:10-11:40 インド側 基調講演

アトール ライ ナレシュ シャルマ	インドツアーオペレーター協会 名誉総合局長 インドツアーオペレーター協会 幹部会員
----------------------	--

11:40-12:10 講演 「インクレディブル インディア」

デベシュ チャトルベディ	インド観光省 局長
--------------	-----------

12:10-12:40 日本側 基調講演

柴 田 耕 介	日本旅行業協会 理事長
---------	-------------

-----12:40-14:00 昼食-----

14:00-16:50 観光ワークショップ

開会挨拶	アトール ライ 佐々木 隆	インドツアーオペレーター協会 名誉総合局長 日本旅行業協会 副会長
------	------------------	--------------------------------------

日本側講演 「インドの観光促進」

佐 藤 勉	日本インド観光促進委員会 前委員長
-------	-------------------

インド側各州、観光業界講演

ラシュミ ヴアルマ ジャエシュ ランジャン ナリン シンハル タンベール ジェーハン パダムジェート シン サンデュー	ビハール州 観光主席次官 アンドラ プラデシュ州 観光次官 インド鉄道ケータリング・観光会社 取締役 ジャム・カシミール州 観光次官 インドプロゴルフ協会取締役
---	--

ワークショップのまとめ、Q&A

デベシュ チャトルベディ	インド観光省 局長
--------------	-----------

16:50-17:30 観光業界意見交換会

-----19:30-22:00 歓迎レセプション-----



09:30-10:00 Registration

10:00-10:40 Inauguration of the Symposium by lighting of lamp

Organizers' Addresses

Mr. Devesh Chaturvedi Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India

Mr. Sujit Banerjee Secretary, Ministry of Tourism, Government of India

Mr. Hiroshi Tabata Director General, Regional Development Department, Japan Tourism Agency (JTA)

Mr. Yuichiro Honda Chief, UNWTO Regional Support Office for Asia and the Pacific & President
Asia-Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)

Guest Address

H.E. Masashi Mizukami Minister Deputy Chief of Mission, Embassy of Japan in India

Vote of Thanks

Mr. Kosuke Shibata President, Japan Association of Travel Agents (JATA)

.....10:40-11:10 Tea Break and Photo Op.....

11:10-12:10 Key Note Address and Presentations, India Side

Mr. Atul Rai Honorary Joint Secretary, Indian Association of Tour Operators (IATO)

Mr. Naresh Sharma Executive Committee Member of IATO

Mr. Devesh Chaturvedi Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India

Presentation on various efforts that are being undertaken by the Ministry to promote India in overseas
Market

12:10-12:40 Key Note Presentation, Japan Side

Mr. Kosuke Shibata President, JATA

.....12:40-14:00 Lunch.....

14:00-14:15 Workshop for Travel Industry, Presided over by JATA and IATO

Exchange of Pleasantries

Mr. Atul Rai Honorary Joint Secretary of IATO

Mr. Takashi Sasaki Vice Chairman of JATA

14:15-16:50 Japanese Presentation "Travel Promotion between India and Japan"

Mr. Tsutomu Sato Ex-Chairman of Japan India Tourism Promotion Committee (JITC)

Presentations on Indian Tourism Product

Ms. Rashmi Verma Principal Secretary, Tourism, Government of Bihar

Mr. Jayesh Ranjan Secretary – Tourism, Government of Andhra Pradesh

Dr. Nalin Singhal Director, Indian Railways Catering and Tourism Corporation (IRCTC)

Ms. Tanveer Jehan Secretary Tourism, Government of Jammu & Kashmir

Mr. Padamjeet Singh Sandhu Director, Professional Golf Tour of India, New Delhi

Summing up of Workshop and Q&A

Mr. Devesh Chaturvedi, Additional Director General (Tourism), Ministry of Tourism, Government of India

16:50-17:30 Business Networking Session

.....19:30-22:00 Welcome Reception.....



デベシュ チャトルベディ Mr. Devesh Chaturvedi

インド観光省 局長

Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India

本日、このような重要なシンポジウムとワークショップにおいて、日本からの参加者の方々をお迎えでき、またインドサイドの参加もいただき、誠に光栄の至りです。私達はこの日を長い間待ち望んでおりました。このイベントの開催を可能にいただいた日本からの参加者の皆様、またUNWTOの皆様、心から感謝、またお祝い申し上げます。

さて、今やインドも世界も物事は前向きな方向に向かいつつあり、私共インドはこの時期に日本を含む5カ国に対し、到着ビザを導入することに致しました。

インドにはアグラ、デリー、ジャイプールという黄金の三大観光地だけではなく、もっとより多くのお見せしたいものがあるのです。インド南部、インド西部、インド東部そしてさまざまな産物もお見せできるのです。さらには世界遺産、健康促進分野、太陽と砂、もしくは医療まで。その全てが私たちにとってはとても重要な日本の市場に印象を残すことができます。日本は観光関連の分野では我が国にとっては上位10カ国に入る国なのです。我々は今後もとても良い交流を続けて行くことになるでしょう。歴史的にも文化的にも古くから繋がりのあったこの2国間の観光交流を話し合うために、時間を割いてお集まりになって下さった全ての方々に、心から感謝致します。

Honorable Secretary of Tourism.

Honorable Minister, Deputy Chief of Mission, Embassy of Japan in India,

Honorable Directorate General of JTA.

Honorable Chief of UNWTO Osaka and the President of Japan Association of Travel Agents.

It is indeed a privilege and pleasure to welcome the Japanese delegation to India and to welcome the Indian counterpart in this very important symposium and workshop. We have been waiting for this for a long time. I indeed thank and congratulate the Japanese delegation and the UNWTO for having made this event possible. Things are looking very positive in India and in the world, and also at a time when we have introduced an arrival visa for five countries, which include Japan.

India offers not just the golden triangle, which is Agra, Delhi, Jaipur but much more than that. And today, our esteemed gathering will have a good nuance of what India has to offer. Be it in the southern part of the country, be it in the western, or the eastern part of the country, and also in terms of various products. Be it Heritage, be it wellness, be it sun and sand, or be it to buy life. All what impressed the Japanese market, which is a very important market for us. Japan is one of the top 10 markets for India in terms of 'involved tourism'. We will be having a very good exchange and I indeed thank again all of you and all the distinguished gathering on stage for having spared some time to discuss tourism exchange between our two countries which have had historical and cultural linkages for a very long time. Thank you very much.





スジット バネルジー Mr. Sujit Banerjee

インド観光省 事務次官

Secretary, Ministry of Tourism, Government of India

UNWTO主催の「日本ーインド観光交流促進シンポジウム」に参加させていただき、大きな喜びを感じております。まず、最初に日本からの友人を歓迎させていただきます。皆様方全てにこの「インクレディブル・インディア」を楽しんでいただきたいと願っております。今日のイベントの目的はインドと日本が戦略的に世界レベルのパートナーシップを高める事です。インドも日本も古くから文明を持ち、宗教的、知的、そして文化的な交流の歴史を分かち合っています。

我々両国は互いが重要なパートナーとして、民主主義、法の遵守、司法の独立と言論の自由の原理原則の下、アジアにおける平和と繁栄の強化を望んでいます。

仏教はインドが発祥の地ですが、今では日本で何百万人もの人々に受け入れられていますし、我々両国には家族に対する価値観、年配の方々への敬意、伝統的な芸術に対する愛情などで類似点があります。このような事を考えれば、両国の友好関係は、我々2国だけでなく、世界中で平和、友好、善意や理解を促進するものとなるでしょう。インド日本間関係が本当の可能性を発揮するための変貌努力は、両国の首相の長年に渡るビジョンでもありました。現在では両国間での協働作業を通して人と人との交流がさらに進んでいます。

私が実に嬉しいと思っていることは、日本からの観光客の数が着実に増えていることです。2008年度の日本からの観光客の総数は15万人でした。そして2009年度の総数はまだ数字としては出ておりませんが、間違いなく増加しております。すなわち、日本はインド来訪という点においてはトップ10カ国に入るわけです。世界的に見ても、ますます相互依存度は増しており、特に近年は観光がさまざまな国々の協力関係や相互理解を促進するカギとなってきました。

そのため、インドへの来訪者を増やすために現在、数多くの宣伝活動を行っています。インド政府とメディアは「インクレディブル・インディア」の認知度を高めるための世界レベルでの広報活動を始めました。我々が取り組んでいるもう一つの活動は、「Visit India 2009計画」の下で、旅行の同行者に、参加している航空会社から割引券を、ホテルから一晩の優待券を提供してもらうというのがありますが、その中にはアールベダやヨガといった健康促進のためのパッケージも含まれます。この計画は世界市場では人気が出たため、2010年の3月まで延長されることになりました。インド政府と民間の関係団体のたゆまぬ努力の結果、インドの観光は既に景気後退からの回復の兆しを見せております。

皆さん、チャトルベティ局長が発表しましたように、インド政府は試験的に5カ国に対し1年間、2010年の1月より到着ビザを導入致しました。このビザは日本、フィンランド、ルクセンブルグ、ニュージーランド、とシンガポールに対してのもので、厳密に観光目的の来訪者に限られます。このビザの導入によりインドは外国人観光客の誘致に積極的であるという姿勢を見せています。そして我が国の治安に自信も感じていただきたいです。これに加えてインド政府は18カ国に長期滞在も認めています。

インドは大きな国で多様な文化と伝統があります。我々の古代の文化や遺跡は大きな強みですが、我々には他にも数多くの新しい観光の目玉があるのです。

それらには医療・健康関連観光、そして田舎の生活や文化を紹介する田舎観光、ヒマラヤ山脈の活動を盛り込んだ冒険ツアーなどもあり、それにはトレッキング、ロッククライミング、パラグライディング、ラフティングなどがあります。

インフラの整備といったしまして、我々はMICE（会議や展示会など）のツアーの促進も絶えず行っています。我が国には世界的規模のコンベンションセンターを作る数多くの計画があるのです。また、インド国内の山間部や人里離れた地を観光地化するために、インド観光省はヘリポートの建設のための資金助成を拡大するガイドラインも発行しました。さらには大型空港の近代化が進行中でして、現在のデリー空港とムンバイ空港は民間運営となります。加えて新たな国際空港が国と民間の合弁事業としてベンガロールとハイドロバードで建設中です。

さらには特に観光のピーク時に対応できるように、主要都市や主要観光地のホテル宿泊総数の増強も図っています。そのような中には観光客の方々がインドの慣習や伝統を経験できるようにインドの一般家庭に宿泊してもらうという計画もあります。

2010年10月3日から14日の期間には、デリーで第19回コモンウェルス競技大会の開催が予定される予定で、その期間には10万人がデリーを訪れると予測されます。インド観光省はこれを機会にインフラの整備、デリーにおける宿泊施設の増強、人材開発、自発的な宣伝活動を促進しています。

これら全ての努力をもって、今やインドは世界でもトップレベルの観光目的地になろうとしているのです。ですから、日本の皆さんにもっとインドの事を知ってもらえるように、またこの2国間での交流と理解がより進み、より良い協力関係が結ばれますように、私は皆様にもさらなる協力をお願いしたいのです。

今日の会議、そして明日のアグラへの旅行が、皆様にとってとても有意義なものとなり、インド滞在を是非楽しんでいただきたいと願っております。

ありがとうございました。

Mr. Masashi Mizukami, Minister, Mr. Tabata Hiroshi of JTA, Mr. Yuichiro Honda, Mr. Chaturvedi – other members from the Japanese delegation, members of the India Travel Trade friends, and press.

It gives me immense pleasure to be part of this UNWTO-Japanese Symposium on Encouraging Tourism Exchange in India. At the outset, let me welcome our friends from Japan. I hope you all will enjoy your stay in 'Incredible India'. Today's event bears testimony to our commitment to the advancement of the strategic and global partnership between India and Japan. India and Japan are ancient civilizations, and we have shared a long history of religious, intellectual and cultural interactions. As important partners in Asia, our countries aspire for strengthening peace and prosperity in the region through a shared commitment to the principals of democracy, rule of law, independent judiciary, and free press.

Buddhism, which originated in India, was received by millions in Japan. We have similar family values, respect for elders and love for traditional arts. In this context, friendship between our two countries will help to promote peace, friendship, goodwill and understanding not only between our countries, but also the world as a whole. The transformation of India-Japan relations to realize their true potential, has long been the vision of our prime ministers. People to people exchanges have been further enhanced through joint collaboration.

I am indeed happy that tourist arrivals from Japan is increasing steadily. India received a total of over 150,000 tourists from Japan in 2008. And that number will definitely have gone up in 2009 whose figures are still being computed. Japan is one of the top ten for India. In a world that is becoming increasingly inter-dependent with each passing year, tourism over the last few years has emerged as one of the key areas for enhanced cooperation and mutual understanding amongst different nations.

A number of promotional initiatives have been taken for promoting India as a tourist destination. Indian government and media have launched world-wide advertising campaigns for greater awareness and visibility of 'Incredible India'. Another initiative taken by us is the "Visit India 2009" year scheme under which participating airlines and hotels are providing incentives to tourists by way of one complementary air passage for a traveling companion and one night complementary stay in the hotel booked by the tourist including wellness packages offering Aayurvedic treatment, yoga and so on. Due to its popularity among overseas markets, the scheme has been extended till March of 2010. As a result of these sustained efforts by the government and the private stakeholders, tourism in India has already started showing all signs of recovery from economic slowdown.

Friends, I'm happy to inform you that with effect from January 2010, as Mr. Devesh Chaturvedi – Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India, announced, the government of India has introduced a visa on arrival scheme on a pilot basis for a period of one year for 5 countries. The visa on arrival scheme is valid for the citizens of Japan, Finland, Luxembourg, New Zealand and Singapore planning to visit India strictly for the purpose of tourism. Introduction of the scheme has already sent a positive message about the intention of India to welcome foreign tourists. It also signals a sense of self-confidence in the security systems of the country. In addition, 18 countries have been granted the facility of long-term visa by India.

India is a vast country with varied cultures and traditions. Our ancient culture and heritage are the biggest strength in tourism, but we have diversified tourism products now, such as wellness, medical tourism, and a rural tourism scheme, which showcases rural life and culture. We have adventure tourism related to activities in the Himalayan ranges, including Trekking, Rock Climbing, Paragliding and River Rafting.

As for the development of infrastructure, we are in a continuous process of upgrading our MICE (meeting, incentives, conferences and exhibitions) tourism as well. There are multiple plans to develop world-class convention centers in the country. With the view to promoting tourist destinations in hilly and remote areas in the country, the ministry of tourism has issued guidelines to extend financial assistance for construction of heliports. Modernization of major airports in the country has been undertaken and Delhi and Mumbai airports have been handed over to private companies. Two new international airports at Bangalore and Hyderabad have been developed through public-private sector partnerships.

Measures are being initiated to augment hotel accommodation in major metro and tourist destinations to meet the requirement of additional room capacity, particularly during the peak season. A bed and breakfast scheme has been launched which would give tourists the opportunity to stay with an Indian family and experience Indian customs and traditions. The 19th commonwealth games are scheduled to be held in Delhi from the 3rd to the 14th of October, 2010. It is expected that 100,000 visitors would be visiting Delhi during the games. The ministry of Tourism has taken several initiatives in regard to the development of infrastructure, augmenting room capacity in Delhi, development of manpower, and volunteer promotion and publicity to use this opportunity.

With all these efforts, India is well on its way to establishing itself as one of the leading tourist destinations. I therefore seek your support in creating awareness about India in your country so that we can enjoy and jointly serve a larger cause of creating brotherhood and mutual understanding amongst nations. I hope the conference today and your trips to Agra would be very beneficial and you'll have a very pleasant stay in India. Thank you.



田端 浩 Mr. Hiroshi Tabata

観光庁 観光地域振興部長

Director General, Regional Development Department, Japan Tourism Agency (JTA)

只今御紹介頂きました、日本国観光庁観光地域振興部長の田端でございます。尊敬するインド観光省スジット・パネルジー次官閣下、デベシュ・チャトルパティ局長、そしてインド旅行業協会ビジェイ・タクール理事長はじめインド側関係者の皆様方、御後援頂きました在インド日本国大使館水上（みずかみ）次席公使閣下、日本旅行業協会佐々木副会長、また関西国際空港はじめ日本側関係者の方々にもご参加いただき、本日ここに「日本－インド観光交流促進シンポジウム」が開催されますことを心からお祝い申し上げます。

国連の専門機関である世界観光機関（UNWTO）は、国連ミレニアム開発目標の達成に向けて、観光開発を通じた貧困の削減「ST-EP」プロジェクトを推進しております。世界観光機関の唯一の地域事務所であるアジア太平洋センターを持つ我が国は、これに賛同し、観光開発により大きな効果が期待できる国・地域において、日本人を中心とした当該諸国への旅行者の増加を図るためのシンポジウムを、開催国政府と共催で実施してきております。今回のシンポジウムは、その一環として開催の運びとなったものであります。

インドは、アジアにおける大国として、日本とともにアジアの繁栄を今後担っていく役割を有しています。このため、昨年末の鳩山総理インド訪問時の日印首脳会談において、「日印戦略的グローバル・パートナーシップ」を新段階に発展させることが確認されました。

その際、鳩山総理からは「人的交流等を通じ若者の間での信頼関係を強化していくことは、両国関係の発展に大きく寄与する」との考えを伝えております。今回のシンポジウムは、両国間の一層の人的交流の拡大に向けて両国当事者間で検討を深める上で大変に時宜を得たものであると考えております。

また、インドと日本国国土交通省とは、都市鉄道や高速鉄道、或いは貨物専用鉄道などのプロジェクトにおいて、日本の政府開発援助（ODA）を通じた協力関係が既に確立されております。

更に、観光庁と同様に国土交通省に属する海上保安庁とインドとの協力関係も進んでおります。本年1月には鈴木海上保安庁長官がインドを訪問し、両国の海上保安協力を確認したところであります。観光庁としても、こうしたインドにおける社会インフラの整備や輸送の安全確保が、今後の観光交流の促進にも大いに役立つものと考えております。

インドは世界遺産をはじめ数多くの質の高い歴史的遺産や大自然を有しており、観光デスティネーションとして多彩で、すばらしい魅力がありますが、日本人にまだまだ充分には知られていないのが現状です。そこで、今回のシンポジウムを通じて、インドを更に日本人にとっても訪れやすい場とするための努力、成果が生まれていくことを強く期待しております。

現在、インドを訪問する日本人は、150,732人（2008年）ですが、これを更に増やしていく、特に若者が海外に訪問しに行く、このようなアウトバウンド振興をどんどんはかって、今後の日印間の信頼関係を確立していきたいと思っておりますので、本日のシンポジウムの成果を期待しております。また鳩山政権におきましては、観光を日本の新成長戦略の大きな柱として位置付け、ビジットジャパンキャンペーンを強化していく方針があり、新たな目標設定で意欲的な取り組みをしていこうとしているところであります。その中で2010年度からインドを重点市場に格上げし、本格的な訪日プロモーションを展開していくことを考えております。日本とインドの相互の観光交流が大いに拡大するよう両国で努力していきたいと考えております。

最後になりましたが、今回のシンポジウムの開催に御協力を頂きましたインド側関係者の皆様方に心から御礼を申し上げ、私の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。



I am Mr. Tabata, – Director General, Regional Development Department, Japan Tourism Agency (JTA).

Today we are joined by Respectable Mr. Sujit Banerjee – Secretary , Ministry of Tourism, Government of India, Mr. Devesh Chaturvedi – Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India, Mr. Vijay Thakur, President of Indian Association Tourism Operators, and other Indian side people, Also Mr.Masashi MizukamiI – Minister, Deputy Chief of Mission, Embassy of Japan in India, Mr. Takashi Sasaki, Vice chairman of JATA and many other Japan side people including members from Kansai International Airport.

I would like to congratulate everyone here on holding this “UNWTO-Japanese Symposium on Encouraging Tourism Exchange in India”.

UNWTO, the specialized agency of the United Nations is aiming at achieving the goal of the U.N. millennium development program and we are promoting a poverty reduction project “ST-EP” through tourism development.

UNWTO Regional Support Office for Asia and the Pacific (Osaka Office) is the only regional office of the UNWTO. Our country, Japan, supports this organization’s activities, and in countries and regions in which big benefits can be expected through tourism development, have repeatedly held symposiums to increase the number of tourists to the country with its government. This symposium is one of those activities.

India is a huge country in Asia and has a role of bringing about prosperity in Asia along with Japan for the future. In the end of last year, when our Prime Minister Hatoyama visited India in the summit meeting “The Japan-India strategic global partnership” was confirmed to be promoted to a new stage.

At that time, Mr. Hatoyama said, “strengthening a relationship of trust through human exchange among young people will largely contribute to the prosperity of both our countries.” The symposium this time is for further expansion of human exchange between both countries, and in order to deepen the discussion between both our countries, it is very timely.

Also, between India and the Japanese Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism, in various projects such as city railroads, high speed train systems and freight trains, sound cooperative relationships have been established through ODA.

In addition to the Tourism Agency, the Japan Coast Guard which belongs to the same Ministry has been proceeding with good relations in India. In January 2010, Mr. Suzuki, Commandant of the Japan Coast Guard, visited India and confirmed the cooperation of both countries in Coast Guard activities. For us, the Tourism Agency, these kinds of developments in social infrastructure and security of transportation will be very helpful to promote tourism exchange in the future.

Not to mention the world heritage sites, India has a lot of quality historical assets and wonderful nature. As a tourism destination, it’s very diversified and attractive. However, Japanese people don’t really know about such qualities. Therefore, in taking advantage of today’s symposium, we would like to make India a much easier country to visit through the efforts generated among us. I strongly expect such developments to continue in the future.

As of 2008, the total number of Japanese who visited India was 150,732. We would like to increase this number, especially we’d like young people to visit foreign countries more so that we can establish a relationship of mutual trust between India and Japan by promoting outbound travel. Therefore, I highly expect positive results of today’s symposium.

Our Hatoyama administration positioned tourism as one of the major pillars for the new future economic growth strategy of Japan, along with the policy of strengthening “Visit Japan Campaign”, and they are ready to work more actively with newly defined goals. One of those goals is a full-fledged promotion for increasing visitors to Japan by raising the Indian status as one of the most important markets from 2010. We are determined to make every effort so that mutual tourism exchanges between India and Japan will dramatically expand in the future.

Lastly, to all the Indian people who kindly cooperated in holding this symposium, I would like to extend my sincere gratitude and I’d like to now conclude my greeting. Thank you.





本田 勇一郎 Mr. Yuichiro Honda

世界観光機関 アジア太平洋センター 代表

アジア太平洋観光交流センター 理事長

Chief, UNWTO Regional Support Office for Asia and the Pacific

President Asia-Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)

尊敬するインド観光省 スジット・パネルジー氏次官閣下、尊敬するデベシュ・チャトルベディ様を始めとするインド政府、観光省、インド側関係者の皆様、日本国観光庁 田端地域振興部長様、ご後援をいただきました在インド日本国大使館様 水上公使様、日本からご参加いただきました日本旅行業協会の柴田理事長、佐々木副会長をはじめとした観光関係の皆様方、そして関西経済界の皆様、並びにJR西日本各社の皆様方の多大なご協力、ご支援を賜り、本日ここに日本・インド観光交流促進シンポジウムを開催いたしますことは、主催者の一員として喜びに堪えません。私は、世界観光機関アジア・太平洋センター代表、アジア太平洋観光交流センター理事長の本田 勇一郎でございます。

私ども世界観光機関（UNWTO）は世界154カ国が加盟する国連の専門機関であり、国連ミレニアム開発目標の一つである「貧困の軽減」を、持続的な観光開発（サステイナブル・ツーリズム）によって達成しようという取り組みに力を入れております。

そして、このアジア太平洋センターは世界観光機関の唯一の地域事務所として大阪に設置されており、このUNWTOセンターの支援組織であるアジア太平洋観光交流センター（APTEC）とともに、アジア太平洋地域における国際観光交流の促進を通じて、国家間の相互理解の増進と、地域の安定を図る役割を担っております。

さて、日本とインドの観光交流、振興を図ろうとする本シンポジウムは、皆様、ご存じのように昨年、2009年1月に実施予定でしたが、2008年に発生した世界金融不況などの影響などで延期されていたものです。この度、特にインド国政府のご尽力により開催に至った次第でございます。

南アジア随一の大国インドと日本国間の相互訪問客についてみますと、日本人のインド訪問者数は、UNWTO統計によりますと、2007年に14万5,000人で、インドにとって日本からの観光客到着数は、アジア太平洋地域では第3位です。一方、インド人の日本訪問者数は、2007年67,500人で、日本にとってインドは、アジア太平洋地域で第8位の送出国となっています。

日本・インド間の観光交流は、近年双方向とも順調に伸びていますが、両国の観光における潜在力はこの数字よりはるかに大きいものと考えられます。

今後、適切なガイドラインの提示と双方の観光業界・観光関係者の努力によって、更に大きく発展すると期待しております。

このため、本日のシンポジウムでは、日本の旅行業界をリードする主要旅行会社全ての幹部や企画担当者に日本から参加いただいております。そして、本日のシンポジウムでは、更なるインド・日本間の観光交流拡大を目指して、講演と双方の旅行業界によるワークショップが開催されます。

特に申すまでもなく、インドはヒンズー教が主体の国ですが、他の文化に寛容なインドは多くの歴史的宗教的遺産の多くを世界遺産として大切に保存されています。

仏教はインドで興り、シルクロードを経て現在の日本で主要な宗教として発展して参りましたが、我々日本人にとっては、インドは仏教国日本人の第二の故郷であり、ブッダガヤをはじめとする仏教の世界遺産は、今後の日本人観光客にとって、最大の魅力のあるターゲットであり、今後多くの日本人が訪れてもらいたい日本・インド交流の最大の動機の一つと言えます。

今回のシンポジウムを機に、具体的に観光商品が企画、開発され、また観光面でのインフラが整備されることによって、持続的な両国間の観光発展の推進に結びつく一里塚になることを祈念しております。

日本の皆さん、心をこめて、この素晴らしいインクレディブル・インディアに日本からたくさんの観光客が訪問するように頑張りましょう。

最後に、本シンポジウム開催にあたってご尽力、ご支援いただきました、各関係者の皆様に改めて、御礼申し上げます私のシンポジウム開会のご挨拶とさせていただきます。ご静聴有難うございました。

Respectable Mr. Sujit Banerjee Secretary , Ministry of Tourism, Govt. of India, Mr. Devesh Chaturvedi Additional Secretary General and other Indian side people from the Indian government and Ministry of Tourism, also Mr. Masashi MIZUKAMI – Minister, Deputy Chief of Mission, Embassy of Japan in India,

As for the Japanese side of tourism, Mr. Kosuke Shibata, President of Japan Association of Travel Agents, JATA, Mr. Takashi Sasaki, Vice Chairman of JATA as well as people from Kansai Business circle and West Japan Railway Company,

Thanks to so many peoples' corporation and support, today, we can hold this "UNWTO-Japanese Symposium on Encouraging Tourism Exchange in India".

It's a great pleasure to announce the opening of this event as one of its organizers.

I am Mr. Yuichiro Honda, Chief of the UNWTO Regional Support Office for Asia and the Pacific, and President of Asia Pacific Tourism Exchange Center (APTEC)

We, the UNWTO are a specialized agency of the U.N, having 154 member countries. One of the U.N. millennium development targets is "Reduction of Poverty". We are working hard to achieve this goal with "Sustainable Tourism".

Our Osaka Office is the only regional office of the UNWTO, and along with its supporting organization APTEC, we are responsible for the mutual understanding between countries and stability through promoting international tourism exchange in Asia and the Pacific region.

As you know, this symposium, aiming at promotion of tourism exchange and development between India and Japan, was originally planned in January 2009, however, it was postponed due to the global economic recession, which occurred in 2008. This time, thanks to the Indian government's efforts, we are now having the symposium.

India is the biggest country in southern Asia. As for the total number of visitors between India and Japan, according to the statistics of UNWTO, 145,000 Japanese people visited India in 2007, which means Japan is in the third place to visit India within the Asia Pacific region. On the other hand, the number of Indians who visited Japan in 2007 was 67,500 and for Japan, India is in the 8th place within the region.

Tourism exchange between Japan and India has been growing steadily for both sides in the recent years, however, there should be much bigger potential for both our countries in the field of tourism. From now on, with the definition of appropriate guidelines and continual efforts made by both countries' tourism industry and related people, we can expect further growth.

Therefore, we are joined by executives, managers and planners from all major Japanese travel companies. In today's symposium, aiming at further expansions of tourism exchange, presentations and workshops will be held by both tourism sides.

Not to mention, in India, Hinduism is the major religion. However, India is very generous to other cultures, and you are preserving many religious sites as world heritage sites very carefully.

Buddhism started in India and came to Japan through the Silk Road. As of now, it has become the major religion in Japan. For us Japanese, India should be our second hometown because we are a country of Buddhism. Starting from Buddh Gaya, the world heritage sites of Buddhism in India will be very attractive targets for Japanese tourists, so I strongly hope that as many Japanese as possible will visit India. This is one of the biggest reasons for this tourism exchange between India and Japan.

Taking advantage of today's symposium, I strongly hope that specific tourism products will be planned and developed, and with the support of improved infrastructure for tourism, those efforts should lead to a milestone of sustainable tourism progress for both countries.

People from Japan, let's work persistently hard so that we can have more visitors from our country to this "Incredible India".

Lastly, to the people who made great efforts and supported holding this symposium in various fields, I would like to extend my sincere gratitude. Thank you very much.



水 上 正 史 H.E. Masashi Mizukami

在インド大使館 次席公使

Minister Deputy Chief of Mission, Embassy of Japan in India

バネルジー氏、チャトルベティ氏、田端氏、本田氏、その他の方々、ありがとうございます。大使館の水上です。

ここデリーでの私の役割は2つあり、ひとつは日本政府としてより多くのインド人の日本への観光の促進、もうひとつは日本人観光会社が日本人観光客をより多くインドへ送って下さるように促進することです。

今日は2つの事を日本から来られた観光業界の方にお伝えしたいと思います。

まずはインドの治安の問題です。これは旅行社の一番のご懸念の点だと思いますが、インドは私の印象として、非常に安全な国の一つでございます。インドでの爆発の報道などがありましたが、インドは日本とは比べられない広がりを持っているのです。この国は28の州、7の連邦直轄地から成っており、人口もヨーロッパの大体2倍です。

これだけの人間がいて、事故や事件がおきないわけがありません。おそらくヨーロッパ、あるいはアメリカ合衆国と比べても事故の少ない地域だと思っております。ヨーロッパは安全だと思われるかもしれませんが、いくつかのヨーロッパの国ではだんだん治安が悪くなっており、過去10年15年というスパンで見ればヨーロッパでもコンボなどで多くの人が戦闘で亡くなっております。じゃあ、インドでそんな戦闘が起き、コンボのように人が死んだのか、死んでおりません。日本でいろんなニュースが流れると、それは全部インドという単語だけで終わっていて非常に治安の悪いような印象をもたれておりますが、私は、インドの都心の一定の地域は全く問題無いと思っております。唯一怖いのは人間じゃなく、狂犬病の問題がある野良犬で、それには気をつけていただく必要がありますが、インドは危ない所だというイメージをぜひ払拭して頂きたい。

2番目は、次官からもお話があったインドでのスキーで、ヨーロッパアルプスの地域からもスキーヤーが来るほど、コースにバラエティーがあるのだらうと思っております。また、インドで楽しんでいただける一つに、買い物があると私は思っています。手作業の細かいものは、本当にお得な値段で、日本に帰る時にはとても重宝なお土産となるそうです。本当に手の込んだものがあるので御覧になる機会があればぜひ見て頂きたと思いますし、そうした買い物の魅力というも私はぜひここで楽しんで頂きたい。日本が一番心配する知的財産権の問題ですが、ここはそう言ったニセモノがありません。それはこの国がやはりオリジナリティーを持っており、だからこそ、例えばここで持って帰ったものが、日本で十分楽しめるものになると思っております。

最後に、日本大使館がインド政府にお願いしているのはビザの問題で、観光ビザだけではなくビジネスビザや就労ビザの柔軟性もとても重要です。それらを充実させ、より多くの人々の交流を促進し、両国の建設的な発展、そして観光が進むことを願っております。ありがとうございました。

I have two functions here in New Delhi, one is as a Japanese government official, to promote more Indian people visiting Japan as tourist. The other is asking the Japanese tourism industry to promote activities to increase Japanese tourists coming to India. I would like to talk about two issues to the people in the tourism industry from Japan.

The first one is about security. This must be one of the biggest concerns for travel companies. However, in my impression, India is one of the safest countries. Though there was media coverage of an explosion in India, India is so huge and it cannot be compared to Japan. This country consists of 28 states and 7 Federal districts, with double the population of Europe. It is natural to have incidents or crimes with such a large number of people. I believe that even compared to Europe or the U.S.A. India has fewer incidents. You may even think that Europe should be safer, however security has recently been getting worse in several European countries. Considering a time span of 10 or 15 years, many people died in a war in Kosovo, Europe. Did India have such a war, and did so many people die? The answer is NO. When people hear negative news about India in Japan, they apt to think very simply and India may give them an impression of being an unsafe country. But I think certain areas in big cites in India have no comparable problems from the view point of safety. The only major scary issue seems to be rabid stray dogs and you need to be very careful to them. However, please wipe out the idea that India is a dangerous place in the minds of potential customers.

Secondly, as Mr. Benerjee said, Indian skiing is so diversified in its courses that it can attract European skiers where they can enjoy Alpine mountains. Also, another pleasure in India is shopping. Hand crafted products are very intricate and reasonably priced. Therefore, they can be very good souvenirs when travelers go home. Some are extremely well made. So, if you have a chance to see them, please enjoy the attraction of shopping in this country.

As for the issues of intellectual property rights, which is the biggest concern for Japan, there are comparatively few such fake products here. This is because India is a country of originality, and that's why the products made in India will be highly appreciated in Japan.

Lastly, I would like to talk about the visa issue, which the Embassy of Japan is asking the Indian government to consider. The flexibility of visas is very important, which includes not only tourist visas but also business and employment visas. I sincerely hope that we can enhance constructive prosperity and tourism by promoting human experience interactions between India and Japan. Thank you.



柴田 耕介 Mr. Kosuke Shibata

日本旅行業協会 理事長

President, Japan Association of Travel Agents (JATA)

尊敬するスジット・バネルジー次官閣下、デベシュ・チャトルベディ局長、他に本日御臨席を頂いた、インド観光省をはじめインド側関係者の皆様方の御協力により、このように盛大に本シンポジウムを開会出来ましたことに、日本側参加者を代表して心より感謝を申し上げます。

インドは、長い歴史と伝統に培われた豊富な観光資源を持ち、本当のコモンウェルスを世界に提供する、そして全世界が注目する急速な経済発展を遂げております。

私共日本の旅行業界も、日本人観光客のデスティネーションとして今後急速に拡大する可能性の大きな国として、インドに非常に大きな関心を持っております

今回のこのシンポジウムで、私共が最新のインド観光事情について情報交換することにより、日本とインドとの観光交流、人的交流そして経済交流が更に拡大していくよう努力して参ります。

本日は本当にありがとうございました。

Respectable Mr. Sujit Banerjee – Secretary, Ministry of Tourism, Govt. of India, Mr. Devesh Chaturvedi , Additional Secretary General, other government officials from the Ministry of Tourism and the people from related tourism sectors, thanks to your kind cooperation, we could hold such a magnificent symposium. On behalf of the Japanese side, I would like to thank you from the bottom of my heart for your kindness.

Your country India has abundant tourism resources by cultivating its long history and tradition and is offering the real commonwealth spirit to the world and is now getting attention in regards to your surprising rapid economic growth from all over the world. We, in the Japanese tourism industry believe that India has big potential to become a good destination for Japanese tourists, so, we are very interested in India.

Through this symposium, by exchanging information about the latest status of Indian tourism, we are determined to make our best efforts to promote the expansion of Tourism Exchange, Human Exchange and Economic Exchange between India and Japan. Thank you.





アトール ライ Mr. Atul Rai

インドツアーオペレーター協会 名誉総局長

Honorary Joint Secretary, Indian Association of Tour Operators (IATO)

皆様方、インドの観光業協会を代表いたしまして、日本からの皆様にご挨拶申し上げます。我々はこの記念すべき機会に参加でき、とても光栄に思っています。そして今後、考え方や専門知識などの有益な交流が両国間で発展していくのを楽しみにしています。私たちが若い頃には、日本製のあらゆる電子機器や機械の技術的な革新性に驚き、あこがれておりました。日本から、おいでの皆様方には是非ともそれと同じ革新性を発揮して、インドへの観光を独自の方法で積極的に促進していただきたいと期待しています。

2008年度にはインド関連市場に対し日本からは効率良く、15万人もの来訪者がありました。日本からの観光客の数が夏に更に増えるのは実に喜ばしい事ですし、それはインドの観光業界としては良い兆しと受け取っています。我々はこのシンポジウムで日本からの情報を基に旅行のパッケージについて話し合おうと楽しみにしておりました。

このまたとない機会に、我々の活動をより広げ、さらには今後の日本とインド間の観光を促進するために、両国の観光業界の専門家達がより効率良く業務を遂行できるようになることでしょうか。我々はこの両国の絆を強くしっかりしたものにするためにいかなる方策をも取り入れる所存です。

我々はとにかく日本からの観光客数を増やしたいのです。フライトの接続の改善、日本食や日本語を話せるガイドの提供、仏教の聖地への鉄道を使ったより良い接続、日本語でのカタログや参考文書など、あらゆる方策を協力して進めています。

私共、インドツアーオペレーター協会の会員は、インド観光省の多大なる支援を受け、政府の要項に従い様々な計画を進めて参りました。IATOは1982年に設立され、1,400の会員がいます。我々のロゴは「IATOの現役会員は、完全な資格を有する、貴方の信頼に足るパートナーです。」と示しています。

UNWTO、JTA、JATAの皆さん、そして我が国の政府の皆さん、このように意見を交換できる素晴らしい機会を与えて下さり、本当にありがとうございました。

Ladies and gentleman, on behalf of the Indian Association of Tour Operators I extend a very warm welcome to our honored guests from Japan. We are honored and delighted to be a part of this landmark occasion. And look forward to a mutually beneficial interaction exchange of ideas and expertise. During our growing years, we have marveled and admired the technological innovativeness of all electronic gadgets and machines made in Japan. We would like to urge all our friends from Japan to apply the same innovativeness to promote India more aggressively and uniquely.

Japan has been contributing very effectively to the Indian 'involved market' to the tune of 150,000 arrivals in the year 2008. We are also happy to see the increased number of arrivals from Japan during the summer months. It's a good sign for our travel partners in India. And we look forward to this symposium to discuss and work out packages based on your inputs.

This unique opportunity will provide a platform for expanding our reach and access, which will enable our tourism professionals to conduct business more effectively, thereby boosting tourism between Japan and India. We are geared to adopt any measure which works in favor of enhancing and strengthening our bond.

We are desirous of a greater volume in terms of tourists from Japan, having cooperated in all measures to improve air connectivity, provide Japanese cuisine restaurants, Japanese speaking guides, train connectivity to Buddhist hotspots and more Japanese language brochures, reference materials etc.

We, the members of Indian Association of Tour Operators (IATO), have, with the valuable support of the Ministry of Tourism, planned and implemented schemes in line with matching requirements. Established in 1982, IATO has about 1,400 members. And as our logo says, "an active member of IATO is your reliable and trusted partner with impeccable credentials." We thank UNWTO, JTA, JATA and our ministry for providing this excellent platform for exchange of ideas.



ナレシュ シャルマ Mr. Naresh Sharma

インドツアーオペレーター協会 幹部会員

Executive Committee Member of IATO

皆様方、このシンポジウムに参加できとても光栄です。今日はインドについてのプレゼンテーションをさせていただきます。インド観光は伸びております。ホテルに関してですが、観光の要であるデリー市内や周辺で2010年までに5,000室が追加的に利用可能になります。

フライトの接続に関してですが、現在我が国では国中のどこにでも多くの民間の航空会社があります。料金も以前に比べてお値打ちになってきており、事前に予約しておけば、世界のどこに比べても劣らないほどの価格でご利用いただけます。

また主なハイウェイは今や全てが6～8レーンとなり、以前よりもずっと時間が短縮できるようになりました。観光客の関心のある都市間を結ぶ列車も今はドイツのデザインと技術を取り入れ、インドで作った新しい車体に変えて、以前よりももっと広くて綺麗になりました。

インド観光省のお陰で、観光客がデリーのインドの一般家庭に滞在することも可能になり、それらは朝食付きで2,500～3,000ルピーの低価格です。それ以外に、予算のあまり無い観光客には他の都市でも以前よりもずっと綺麗な二つ星、三つ星のホテルが提供できるようになりました。また、メディカルツアーにおきましても、我が国は何世紀にも渡る専門知識がありますので、世界で最高レベルのものを提供できます。

次はツアーガイドについてですが、インド観光省は2010年までにガイドを2,500人追加することを約束しています。主な観光都市では専門的な訓練を受けた外国語でのガイドも利用可能となっています。

食事ですが、日本食、中華、タイ料理、韓国料理レストランなどがデリーやムンバイなどの主な都市で揃っております。

さて、観光についてですが、チャーター便でヒマラヤ山脈へ、偉大なるガンジス川、砂丘とラクダの砂漠、そしてヨガと瞑想、さらにはストレスを取り除くアーユルベダもあります。野生生物の聖地も至る所にあり、インド虎などが見られます。アドベンチャースポーツとしてはスキーやラフティング、そしてダンスも各地で楽しんでいただけます。また買い物に関しましても、インドには特徴のある細かい手作業の工芸品から、都会のデパートでは世界的なブランド品までも取りそろえております。

光の祭り、色の祭り、また数多くの宗教的祭りなど、インドには多くの祭りもあります。日本人の関心の的の仏教の聖地へも、道路が大幅に改善されました。昔の状態が残っている仏教の聖地への、何物にも例えがたい素晴らしい旅を楽しんでいただきたいと思っております。

そして4種の豪華な列車も登場いたしました。それらに関しましては、ワークショップでのプレゼンテーションで別の方が話されます。ご静聴ありがとうございました。

Ladies and gentleman, it gives me an immense pleasure to be a member of this symposium and I'd like to give a small presentation about the growth of tourism in India. Regarding hotels, an additional 5,000 rooms will be available, by or up to 2010 in and around Delhi which is a tourist hub.

For air connectivity, now we have a lot of private airlines available for all domestic sectors. They offer more competitive rates than the earlier fares, and if you book in advance, it's as cheap as any other place you can compare with.

All major highways are now converted into 6-8 lanes, which creates less travel time than the earlier ones. Most trains, which run between the cities of tourist interest have new bodies based on German design and technology, but made in India. They are more spacious and much cleaner than the earlier trains.

Thanks to the Ministry of Tourism, tourists can experience a stay with an India family with a moderate price, which varies from 2,500 to 3,000 rupees per night, including breakfast, in Delhi. All other cities have now good 2 and 3 star hotels, much cleaner and can easily be fit for the budget tourist. As for medical tourism, we have centuries of expert and professional medical care, at par with the world's best.

Regarding tour guides, the Ministry of Tourism has promised to provide 2,500 additional guides by 2010. Foreign language guides are available in most cities of tourist interest and these guides are also professionally trained.

Regarding cuisine, Japanese, Chinese, Thai, and Korean restaurants are available in most metropolitan cities like Delhi and Bombay.

Now we come to sightseeing. We have charter flights, which are available to experience the Himalayas, Wild Ganges River, deserts with sand dunes and Camels, Yoga and meditation as well as Ayurveda can alleviate your stress. As for wildlife, we have a lot of wildlife sanctuaries such as those for Indian tigers all around India. We also have our adventurous sports, such as skiing, rafting and even dancing in each state. Concerning shopping, we have unique hand craft as well as international branded goods in the city malls and department stores.

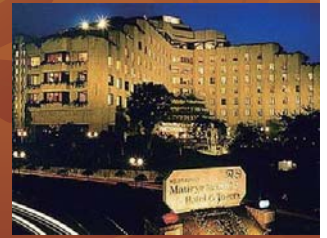
We have a lot of festivals in India such as a festival of lights, festival of color, and many festivals of religion. We have many monuments and unique and ancient buildings, which can be seen all around India. Now for Japanese Buddhism, the roads to holy heritage sites have been improved. We would like you to discover a priceless treasure of pristine Buddhist heritage.

Additionally, we have now 4 luxury trains with us, and more detailed information about these will be described in the workshop. Thank you so much, and thank you for your patience.

GROWTH IN TOURISM SECTOR IN INDIA

Hotels

- Additional five thousands rooms will be available by October 2010 in and around Delhi, which is the tourist hub.



Air connectivity

- Now we have a lot of private airlines available for all domestic sectors. They are more competitive than earlier fares..



Transport and roads

- Better transport facilities are available now, most of the international branded cars and Volvo coaches are available in all major cities of tourist interest. All major highways are now converted in to six to eight lanes.



Railways

- Most of the shatabdi express which run between the cities of tourist's interest has new set of bogies on the German design and technique but made in India, They are more spacious and much cleaner than the earlier ones.



For budget tourists

- Delhi govt. has announced and sanctioned one thousand rooms on bed and breakfast basis as paying guest accommodations In private home. One can experience stay with Indian family with a nominal price which varies from 2500/- to 3000/- per night including breakfast.
- All other cities like Agra, Jaipur and Varanasi has now good two and three star hotels which can easily be fit in for budget tourists.

Medical Tourism

- Enter into a sanctuary of expert and professional medical care, at par with the world's best. Affordability, availability, specialization, finesse and above all- personalized attention are India's forte. For a truly incredible healing experience, it's definitely destination India!



Tourist guides

- Govt. of India tourist office has promised to provide 2500 additional guides by 2010.
- In this process they have already trained more than 750 guides and another 500 guides are already having professional training at present.
- Foreign language guides are available in most of the cities of tourists interest and these guides are also professionally trained.

Japanese ,Chinese, Thai and Korean restaurants

- Most of the metropolitan cities like Delhi, Bombay, Chennai, Bangalore and kolkatta has Japanese,Chinese, Korean and Thai cuisine available in authentic restaurants. Most of them are either in the hotels or local shopping areas.



Himalayas

- We have a beautiful Himalayas for trekking and sight seeing purpose. The charter flights are available to Experience the Himalaya via Ganges River in Haridwar and Rishikesh. The flights can be arrange from Delhi and Dehradun



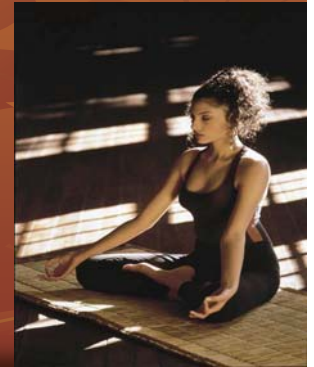
Deserts

- The sandunes in jaisalmer with night dance and dinner is an unique experience at itself in the deserts.
- Camel safari's are available in sandunes of Sam .



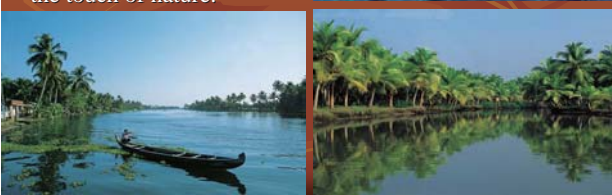
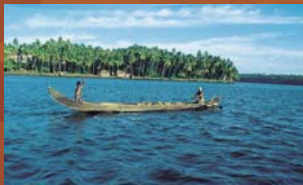
Yoga and meditation

- Yoga classes and unique spa in the hotels are available in all around the beaches.



Backwaters

- A unique experience to stay in the house boat in backwater of cochin, allapey and kotayam.
- One can really experience the touch of nature.



Ayurveda

- To take out your stress and get relief of all pains, experience the ayurveda massages which are available in all around India.



Wildlife

- The Indian tigers can be seen mostly in the jungles of Madhya Pradesh and Gujarat. We have a lot of wildlife centuries in all around India.



Adventure sports

- One can experience this skiing, water sports, mountaineering, and water rafting in India.



Dances

- Every state has a different dance which is been performed on every festival and ceremonies. They can be arranged on request.



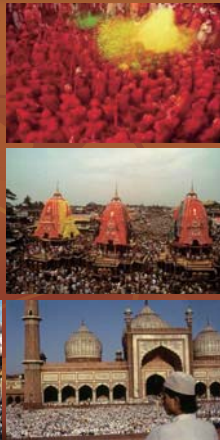
Shopping

- We have the unique handicrafts, goods are available in and around all tourist places. However, we have all international branded goods are also available now in India in city malls and departmental stores.



Festivals

- We have festivals of lights -Diwali
- Festivals of colour Holi
- Festival of religion like: Id , Dusshera ,Ganesh chaturthi, and jaganath rath yatra.



Monuments

- A unique architectural and ancient buildings can be seen all around India. Every different state has different architectural buildings.



Buddhism

- Retracing Buddha's Footsteps
- Walk with the Buddha-Take an enhancing journey across Bihar and Uttarpradesh.
- Discover a priceless treasure of pristine Buddhist Heritage.



LUXURY TRAINS



Thank you



「インクレディブル インディア」

Presentation on various efforts that are being undertaken by the Ministry to promote India in overseas Market

デベシュ チャトルベディ Mr. Devesh Chaturvedi

インド観光省 局長

Additional Director General, Ministry of Tourism, Government of India

皆様方、私はインド観光省局長のデベシュ・チャトルベディです。インドの観光を促進、開発するために我々インド政府が進めている努力についてお話しさせていただきます。

インドはEUのごとく、さまざまな州がありその各州にそれぞれの文化やテーマがあり、本当に多くの見所があるのです。特に、日本の冬の11月から3月にはお薦めです。太陽と砂、そして国中が穏やかな良い気候の時期だからです。

インドへの観光は2002年頃からゆっくりしたペースで始まり、「インクレディブルインド」やその他の広報活動で2007年には大きく勢いが付いてきました。2008年の観光客は520万人で、2009年は多少減少しましたが、今年はまた明るい兆しが見えています。外貨換算した観光から得られる利益は増加を見せており、我々はインドの観光の成長はまだ今後も続くと自信を持っております。

コモンウェルス大会が近づいてきておりますが、外国人観光客が増えるなど、観光においてはとても大きな数的増加を見込んでおります。さらには我が国にはおよそ4億から5億の国内の観光客もおり、彼らは観光シーズンではない4月から7月の期間も動き回っており、各観光地のインフラ整備と経済の活性化に貢献しています。

日本からの訪問客は2006年には119,000人、2007年には145,000人で、2008年には151,000人でした。日本はインドへの訪問客数としては8番目に位置する国で、我々としてはもっと多くの方々に日本から来ていただきたいと願っておりますが、それも私たちの努力次第でもあると思います。

宣伝活動に関しまして、過去1、2年の間に我々が採択した戦略についても簡単に概略を述べたいと思います。ムンバイとブネでテロがありました。しかし、この地球上では災害もテロも何も起こらない場所など、どこにも無いと思うのです。インドは広大な国ですが、極めて安全なのです。マハトマ・ガンジーがこう言いました。「私は国土のあらゆる文化ができるだけ自由に栄えて欲しい、しかし、何物にも足元をさらわれるような事は避けたい。」これは世界に対して、我々は断固として立ち、たとえ事件が起ころうと、我々の民主主義への道を阻む事はできない、インドへの外国人観光客を迎えることを阻むことはできないとのメッセージだったのです。インドは多文化社会で、それがインドへの観光を促進してきたのです。「お客様は神様のようなもの」が私たちの歓待の精神であり、私たちは単にビジネスとして人々を歓待するのではなく、元々人との出会いを好む性質を持っているのです。そのような精神の下、若い人々も一緒になって我々は市場戦略、ポスター、映像などの部門で多くの国際的な名誉ある賞を勝ち得てきました。そのような映像もこのプレゼンテーションの最後にお見せ致します。

さて、日本市場に向けてですが、到着ビザは当面観光目的のみに限られておりますが、もし今後要請があれば、それはビジネスビザにも拡大され得ます。これはインド政府が1年間5カ国に対して実施するはじめての試みです。1年後にはこれを見直し、今後どのような自由化を実施できるかを考えていくわけですが、我々はあくまでもこのような要請を念頭に置き、日本からの観光客のために一層の努力をして参ります。

仏教は観光市場の中でも最も重要なものです。インドはその発祥の地で、我々は常にインドの仏教巡礼回路の促進に努めております。日本の銀行のJBICやJICAなどがこの巡礼回路の発掘に資金提供してくれていまして、今や次から次へと仏教の聖地が現れているのです。ビハール州の仏教の聖地はブッダガヤ、ラジギール、ナーランダから始まり、バイシャリなどと続いていきます。これらは仏教を学んでいる日本からの観光客には、とても関心を持っていただける重要な地となるでしょう。

インドには砂漠のサファリもあります。ジープやサファリ用の車を使うのですが、インドの文化的要素もふんだんに盛り込み、美味しい料理も楽しんでいただけるもので、2月27日より開始致しております。また、我が国には美しい、自然に優しい、野生生物豊かな浜辺も多くあるのです。日本の寒い冬の季節には是非おいでいただきたいものです。

精神的そして健康促進的な分野、すなわちアーユルベダ、ヨガ、その他の癒し療法の観光に関しても、インド政府は積極的に促進しています。今年の9月頃にはケララ州で健康促進の国際会議を行う事になっております。どうか皆様も一度ケララ州においてになり、私たちのお客様としてこの癒しを体験なさってください。我々は日本が発展したのは、1日に12時間から14時間も働くような勤勉さのお陰だと知っています。しかし、そのような働き者の方々にはレジャーや休日でも身体を若返らせたり、健康上の問題を取り除いたりすることが必要ではありませんか。本当に是非ともおいで下さい。

私たちはもちろん日本も含めて、観光の海外市場への強化を高めています。一連のロードショウやアウトドアキャンペーンなどを日本でも展開していますが、これは単にビジネス的側面だけでなく、日本の人々に私たちの思いを届けたくてやってい

るのです。私たちは市場開発計画における投資も更に進めていきますが、そのような投資の一部がこのセミナーの開催にも使われたわけです。

また、我々は疑わしい宣伝文句、間違った情報などから観光客を守る法律の整備を致します。確かにそのような被害もまだあるかもしれませんが、実際には本当に心から皆様も歓待する業者が多いのです。現在この法律は整備中でして、外国人観光客のためには、これは我々の使命と思っています。

主なハイウェイ沿いのアメニティ施設（サービスエリアなど）は重要な観光地に導いてくれるものです。我々インド政府は各州政府と協力して、主な道路に50キロから100キロ毎に道路沿いのアメニティ施設の設置に尽力しています。設備は美しく、世界的なレベルのもので、しっかり手入れもされ、観光客の方々が旅の途中で何も問題が無いように配慮しております。

多言語の観光専門ガイドに関してですが、既にもうそこそこの数はいるのですが、それでも我々はもっと訓練を施し、より多くの言語のガイドを育成していく方向にあります。日本語もちろん含まれており、皆様方には国中のさまざまな興味深い地で彼らを使うことができるようになります。

ホテル宿泊に関する要請に関してですが、私たちは現在そのフィードバックの真最中でして、丁度コモンウェルス大会があるのでそれを機会に、あらゆる種類の宿泊施設の開発を検討しようとしております。その中にはとても安い料金のホテルも含まれています。我々は何とかホテルの料金をもっと安く、競争できる価格に下げたいと望んでいます。そうすれば、インドへのパッケージツアーがもっと競争力を持つからです。この方向性は外国からのそして国内の観光業界からのフィードバックを下に生まれたものです。我々は観光産業に対して多大なる奨励策を提供しました。その中には割安ホテルへの税金削減策なども含まれています。これにより、1年後にはデリーでもその他の地域でもホテルという点では大きな変化が起こる事になるでしょう。

コモンウェルス大会を控えて、デリーはどこもまさに手術中のごとくに見えるでしょうが、本当にどこも改善するために大きな手術をしております、そのどれもが3月、4月から6月辺りまでに完成することになっています。メトロも3ヶ月後に開通です。

コモンウェルス大会を控えて、デリーはどこもまさに手術中のごとくに見えるでしょうが、本当にどこもよりよくするための大きな手術でして、そのどれもが3月、4月から6月辺りまでに完成することになっています。メトロも3ヶ月後に開通です。

空港の整備も進んでおりデリーやムンバイの新たな空港は完成間近ですし、ハイドロバードやバンガロールにも国際空港があります。これらの新たなインフラの整備により、観光地そのものは素晴らしいけれど、途中でトラブルが多くてなかなか目的地にたどり着けない。という皆様方の懸念を払拭することができます。空港から目的地、もしくはホテルまで、観光客は何か苦勞することなくスムーズに到着できるようになるのです。それは時間や労力、そしてお金の節約にも繋がります。

今は、我々インド政府、各州政府、そして関係民間団体がそれぞれ協力して、これら全ての努力を進めており、今後数年先にはインドがもっと面白い、もっと魅力的な目的地となる事に焦点を絞っています。我々は日本からもっと多くの方々がさまざまな方面に関心を持ってインドに来ていただきたいと心から願っておりますし、そのためにもここにいらっしゃる皆様方には重要な触媒の役割を果たしていただきたいをお願いしたい次第です。さて、私のスピーチは終わりますが、最後にインドの観光を映し出しているグランプリ賞に輝いた映像作品をお見せいたします。ご静聴ありがとうございました。

Distinguished ladies and gentlemen, I am Mr. Devesh Chaturvedi Additional Secretary General, from the government of India. I'll just give you a brief presentation of what other efforts of the government are in terms of promoting and developing the Indian tourism sector.

India is like the European Union with each state having a different culture and different theme, so there really are many different things and places to enjoy. In particular, I would like you to visit us when Japan is in winter from November to March. We have sun and sand and very moderate weather all across the country during winter.

Indian tourism started from a low base in the year 2002 and a campaign of "Incredible India" coupled with other initiatives taken has boosted tourism in 2007. We had about 5.2 million visitors in 2008. 2009 saw a bit of a decline, but we have recovered a lot, and this year is looking very bright for us. The foreign exchange earnings have still shown an increase, and we are very confident that the growth of tourism sector in India will continue to increase.

The Commonwealth Games is approaching, and we feel there will be a huge surge in these tourism figures, such as foreign tourist arrivals. Additionally, we have over 4-500 million domestic visitors And they move even in a non-tourist season from April to July bringing resilience to the infrastructure and economy of that area.

As far as Japan is concerned, we had 119,000 visitors in 2006, 145,000 visitors in 2007, 151,000 visitors in 2008. Japan is 8th on the list of countries with high visitor numbers to India, and we expect more tourists from Japan, which depends on our efforts.